

鶴川図書館がなくなる！

鶴川図書館の存続を求める緊急集会 第2弾

日時：2019年2月23日（土） 14：00～16：30

場所：鶴川文化センター 2F 和室

参加者：20名

あいさつ （藺田）

本日は会に先立って、鶴川図書館見学会を行い、創立47年、団地の真ん中にある知的空間を素晴らしいものと感じた。この図書館の年間運営費は人件費を除いて600万円程度という。市の財政において、なにを大事にしていくのか？今の図書館の「見直しプラン」は決して熟考されたものではなく、そのあり方を問い直していきたい。

1. 市長宛て「要望書」の提出報告と「図書館大好き児童画展」（富岡氏・鈴木）

要望書（署名4234筆）を副市長に提出した。市長には会えず、奥議員の働きかけにより、副市長との面談ができたものの、わずか15分。副市長がこれまで散々聞かされた通り一遍の再編の必要性を滔々と語り、こちらが話しているのを遮って席を立つ始末。市の姿勢はこうである。要望書への署名はその後358筆集まり、今後も継続する。5000筆を目標。

「鶴川図書館大好き一児童画とメッセージ」は3月まで募集し、よさこい祭りで広場に展示する予定。鶴川3小の1～3年生にも画用紙配布をお願いして配布できたので、持ってきてくれた子にはボールペンをあげる手配をしている。（当日までに集まった作品が回覧された。）

小学校のPTAへの署名活動の働きかけも行ったが、個人情報などの問題があり、むずかしいという回答があり、個人として協力するしかないとのこと。

2. もっと知ろう！町田の図書館と鶴川地域（鈴木）

資料とパワーポイントでグラフ等のデータをもとに報告。

- ・町田市立図書館は蔵書数、資料費、図書費共に、多摩地域（町田市と相互利用協定を結んでいる八王子、町田、府中、調布、日野、多摩、稲城の7市）の中で最低ライン。

注：資料＝図書＋雑誌＋新聞＋視聴覚＋その他（紙芝居・地図・官報等）

- ・町田市の一般会計決算を見ると、2007年を1とすると2017年は1.27倍に増えているが、図書費は2007年の7800万、ピークの2011年約1億円から3千万円に減っている。図書館費の方は、わずかに増えている。システム更改によるコスト増、耐震工事、複合施設化のコスト増が考えられる。1館あたりの図書費の推移は、2007年を1とすると0.29まで減っている。

・各館の概要

鶴川図書館：建築年1967年、独立館、土地建物所有はUR、旧耐震、蔵書5万冊、貸し出し冊数2011年52万冊、駅前図書館開館の後、2017年20万冊、

利用割合上位鶴川35.1%、能ヶ谷11.8%、大蔵町11.01%、駅前図書館と併用32%

- ・蔵書回転率 3.5 他とくらべても低くない。蔵書は 5 万冊と少ないが、回転率は市で 4 位。
- ・生涯学習部の 2018 年度予算から（市の HP より） 鶴川図書館についての記載

図書館経費 617 万 4000 円

図書購入費 119 万円

建物賃貸費 168 万円

2018 年度の取り組み 小規模館の特徴を生かし、高齢者の利用に応える。

- ・町田市の人口の推移と鶴川地域、鶴川図書館エリアとの比較

2009、2014、2019 年と 5 年毎に見ると、微増。世代の割合も殆ど同じであり、鶴川図書館エリアの人口構成も同様。減少、高齢化もとくに見られない。

図書の貸し出しは、鶴川と駅前を足すと中央に次いで多い。リクエスト数は鶴川が 3 番目に多い。

質問

（藺田）データからは図書館の利用価値が下がっていることは見られないが、多摩地区 7 市との比較でも以前は良かったのか？

（守谷）資料費はピーク時は約 1 億円、2017 年では 4300 万円。図書館数は町田の人口 43 万人にくらべて少ない府中市（25 万人）で 13 館、調布市（21 万人）で 11 館あり、町田は 8 館。

3. 町田の財政と「町田市 5 カ年計画 17-21」 （守谷）

図書館に「町田市の財政」という市が毎年発行する冊子が置いてあり、町田市の財政状況を知ることができる。また、総務省がネット上に公表している最新の「平成 28 年度地方公共団体の主要財政指標一覧」を見ると、財政力指数 0.98、経常収支比率 93.7、実質公債費比率▲1.3 などで、町田市の財政は多摩地域の各市と比べてほぼ平均値で特に悪い状況ではない。

自治体財政は全国的にみて厳しいのは事実だが、その自治体が何をしようとしているのか、つまり限られた財源の使い方＝政策選択の問題が大事。

町田市が 2027 年 2 月に公表した「5 カ年計画」の〈重点事業プラン〉の一覧に金額を書き入れたものを見ていただきたい。突出しているものは、「賑わいのあるまちをつくる」の項目にある鶴川駅前周辺のまちづくりの推進 33.1 億円、南町田駅周辺地区の拠点整備 73.8 億円、文化芸術の拠点施設の整備（工芸美術館）17.6 億円、野津田公園スポーツの森の整備（プロスポーツなどの大きなスポーツ大会に対応する競技環境と観戦設備）75.3 億円、薬師池公園四季の杜の整備 25.4 億円。東京新聞でも「大型工事がめじろ押しで、一般会計は過去最大」と報じられている。

その一方、〈行政経営改革プラン〉では、「市有財産の戦略的活用」の項目のもとに、「公共施設再編」「文化芸術施設のあり方見直し」「自由民権資料館のあり方見直し」「図書館のあり方見直し」「文学館のあり方見直し」「生涯学習センターのあり方見直し」など、ほぼすべての生涯学習や歴史・文化関連施策の「見直し」（整理・縮小）が並んでいる。これらの見直しはすべて「新規」とあり、前期 5 カ年計画にはなかったものである。ご覧のように、図書館の見直し内容として「8 箇所ある図書館の再編を推進」「2019 年実施準備、2020 年実施」と書かれている。

4. グループ討議（3：15～4：10 をめどに 2 つのテーブルに分かれこれからの運動をどう進めるか意見を出し合った。市議の殿村議員、渡部議員も各々のグループに入る。）

討議後の各グループの発表

テーブル①（9名中初めての参加が半数以上）

- ・多摩市では当初図書館の削減が提案されたが今中央図書館建設に向かっているとのこと。多摩市の運動を参考にできないか。
- ・署名は本当に市長に届くのか？請願が通ったのに、要望書を出すとはどういうことか？
- ・一旦市が決めたからといってあきらめるわけにはいかない。
- ・子育て広場の活動などを通じて若いお母さんたちとも話すが、みな鶴川図書館をよく利用している。もしなくすようなことになれば、子どもたちに申し訳ない。
- ・この問題を身近な人に話して、もっと多くの人に知らせること。マスコミも通じて。
- ・URはどのように考えているのか。URの情報が知りたい。
- ・URの提案は必ずしも納得がいくもではない。建て替えも委託でやるような考えもあるようだ。
- ・行政がいったん決めても、運動によって事態が変わった例がある。教育予算の削減や障がい者の家賃補助など。

テーブル②（11名中4名の方は初めての参加）

- ・今まで鶴川図書館の状況を知らなかったという人が周りに多いので、もっと知らせることが大事。
- ・市は民営化を考えている？というところから指定管理の問題について討論
民営化されると個人の情報が守られないのでは。
市の指定管理の選定方法も問題あり。
- ・PTAで動くことは難しいが、個人に知らせる。
- ・請願が通ったのに計画に活かされていない問題⇒
請願がまとまっても、地元のいろいろな意見があるようであまりかたまっていない。
請願の内容と市の方向が違う場合は、なかなかいかされないのが現状。
市長を支持している人にも手紙を書いてもらうとか働きかけてもらう。
- ・URを動かすのは？⇒URは全然信用できない。現在、定期借家に入っている店は建替え後は入れない。建替え期間中は自分たちの努力で営業を続けなくてはならない。建替え期間中及び建替え後の商店街の展望が望めない。URは無責任で建替え等も民間に丸投げのため、商店を継続していくのが困難で話し合いは進んでいない。
- ・団地の買い物困難者に役立つ4人乗りの電動自動車の運行をはじめの予定、図書館利用もできるようになる。
- ・知ってもらうために商店街に「鶴川図書館を存続させよう」などののぼり旗を立てたら。

まとめ（藺田）

知らせること、広報の必要が出された。地元で強力な中心を作っていければと思う。市長への手紙も出しましょう。具体的なことが書かれていれば回答がくることもあります。（情報保護シール付のハガキを用意、希望者に配布）

次回のお知らせ

4月20日（土）この場所で開きます。